THE 40TH ANNUAL MEETING OF
JAPANESE SOCIETY OF PSYCHOPATHOLOGY

第40回 日本精神病理学会大会

仙台

精神病理学はゆく、
たとえ「知の危機」の時代が来ようとも。

2017年10月20日(金)～10月21日(土)

夜話会 10月19日(木)

会場 仙台国際センター展示棟　会長 岡崎伸郎 ●国立病院機構 仙台医療センター精神科部長

特別講演 野家啓一 ●東北大学名誉教授 総長特命教授、科学哲学 ▷科学哲学から見た精神病理学

会長講演 岡崎伸郎 ▷精神病理学はゆく、たとえ「知の危機」の時代が来ようとも。

メインシンポジウム **現代社会vs.精神病理学**
高岡 健×井原 裕×中村 敬×柴山雅俊●司会

シンポジウムI **司法精神医学における精神病理学の役割**
中谷陽二×小西聖子×吉岡眞吾×中安信夫●指定討論・司会＋八木 深●司会

シンポジウムII **心の傷とその回復** ■レジリエンスの精神病理
岩井圭司×堀 有伸×金 吉晴×加藤 敏●司会

ランチョン・トーク 香山リカ ▷「ポピュリズムと精神医療」をおおいに語る

一般演題募集期間 2017年1月10日(火)～6月30日(金)
https://www.snh.go.jp/Psychopathology/
〔仙台医療センターHP内〕 ●一般演題募集要領、参加費などはHPをご覧ください。

事務局
独立行政法人 国立病院機構仙台医療センター精神科
〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野2丁目8-8
TEL●022-293-1111(代) FAX●022-291-8114(代)
E-mail●k-takahiko@gem.hi-ho.ne.jp
担当●菊池 孝(事務局長)／齋藤 実奈子

会長ご挨拶

▼知によって社会に寄与しようとする人々の間で、「知の危機」の時代の到来が囁かれています。巷では、これからの大学には実学以外の人文社会科学は無用とする議論が幅を利かせ、文系の知の巻は経営と法律実務の専門学校化しつつあります。また、文・理の知を統合するための素養としてのリベラル・アーツは今や死語に属し、それに代わる問題解決の手段として、理性的思考より大衆感覚的ノリに頼ろうとする反知性主義が跋扈しています。

▼こうした趨勢は、人文社会科学の知と自然科学の知を峻別し失機する場にいる精神病理学にとっての重大局面でもあります。科学全体における人文社会科学的知の軽視、あるいはリベラル・アーツの失墜りは、そのまま精神医学界における精神病理学の軽視と重なり合っているように見えます。

▼一方、自然科学的精神医学の側も、(とりわけ自覚的かはともかく)実は危機的状況にあります。精神薬理(新薬開発)をはじめとする領域で深刻な行き詰まり感があり、また、"さいきょうだ"さん、の合言葉の下で量産される知見の脱臼科学性が知れるにしたがって、その科学的基盤がゆらいでいるのです。「ここが精神病理学の出番だろう!」と主宰者は自らを鼓舞しています。

▼分断されタコツボ化された文・理の知をつなぎ直し、新たな知の枠組みを創生するために、精神病理学こそが先頭に立って発言するのでなければならない、と、少し気負ってみることも、この際、必要かと思います。

「知の危機」の時代を脱出するためのキーパーソンとしての精神病理学

このようなこころざしを密かに抱きながら、2017年仙台大会の準備を進めております。

▼10月下旬の「杜の都」仙台は、樹葉木が色づき始める美しい頃ですが、加えて食の宝庫でもあります。山海の珍味とともに杜の都の「知の饗宴」を味覚していただきたく、心からお待ちしております。